

よしかわ通信



発行
高萩市議会議員
よし かわ どう りゅう
吉川道隆
高萩市安良川686
TEL 0293-24-0833
FAX 0293-22-3340
ホームページ
<http://www.douryu.net>
E-mail
info@douryu.net



菊花の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。最近、地球温暖化の影響なのか、自然災害が特にひどくなってきました。猛暑のあと、いつまでも厳しい残暑が続いたと思ったら、今までにないレベルの台風が二つも日本を直撃、大変な被害が出ました。被災された方には心よりお見舞い申し上げます。今までこんなことはなかった、と皆さん口にされていました。大きい台風が来るよというニュースを見ている、心のどこかで「うちのまちは大丈夫だから。」と思っています。その根拠のない安心感を持ってしまったために油断して避難しなかったことで浸水被害にあわれた方が多かったようです。市役所からいただいたハザードマップ。今回改めて広げてみました。各地で、防災無線が聞こえない、避難の指示がなかった、堤防決壊の情報が十分に周知されないという声がありました。こういった経験をそれぞれの地域で反省材料とし、もう一度災害時の対応について見直していくべきだと思います。

駅前通りの街路灯について

質問 高萩駅前通りの街路灯については、電気料を駅前通りの商店街の会費と市を通じて商工会からの補助金で支払っているそうだが、会員数の減少と電気料金の値上げにより、その支払いが非常に困難になってきたということで、今回市に要望書が出された。聞くところによると、電気料金の支払いが厳しいと、街路灯の半分を消灯することになり、一部消灯したものは、東電の話では約2年は復活できない。駅前通りは通勤通学の利用や学習塾に通う子供の利用、飲食店もある。商店が店を閉めてしまったところはお店の明かりもなく、真っ暗。そんな状況でさらに街路灯まで半分になってしまったら、中心街活性化どころではないと思うが、どうか？今回、要望書が出てきたが、以前に駅前通りの方々からこういう相談はあったのかどうか？

市長答弁 高萩駅前通りは、高萩の玄関口であり、駅を利用される多くの市民の皆様や市外からの来訪者が通勤通学等で毎日行き交う道路である。利用しやすい駅前となるよう、今年度の事業として高萩駅西口駅前広場再整備条件検討調査委託料を計上し、高萩駅前ロータリーやバスターミナル付近の整備を進めているところであり、本年度は茨城国体も開催され、多くの方が本市を訪れる。このような中、駅前通りの街路灯が7月から暗くなるとは、余りにも急なことで大変に困惑している。高萩市のイメージダウン、商店街の活性化や防犯上の観点からも好ましいことではない。事前に話は聞いてはいたが、具体的にそれだけ直近している大きな問題としては捉えていなかった。

質問 市内の街路灯、LEDになっているところが多いが駅前通りはなっていないために、電気代も高く、支払いが大変。平成25年まちづくり交付金でLED化を進めたときに費用の3分の1は各団体が負担すれば、残りは3分の2を国が負担してくれた。進めた団体もあったが、駅前はその3分の1を出すのが当時大変だったので、LED化をしなかった。

今できることとしては、何らかの形で駅前の街路灯をLED化して、支払いの電気代を少なくするように進めていくことが必要。そのためにはLED化の工事費用をどうするか。ほかの団体の街路灯もLEDになっていないところもある。全体で502基あって、LED化されているものは295基、駅前だけ特別扱いは不公平という声もある。進め方として私から3パターン提案する。

- 1、工事費用の3分の1は商工会から駅前通りの商店街に無利子で貸し付けし、LED化する。電気代の差額が約5年で元を取れるから、以降、年度に少しずつ5年をめどに商工会に返金する。この場合、ほかの団体にも同様に扱う、残り3分の2を市が補助をする。優先順位として、高萩市の玄関口である駅前是最初に工事を進められるようにする。
- 2、工事費用をまず全部市が出して、そのかわりに5年間の電気代の補助をなくして、その5年間に元が取れたら、6年目以降は、補助率を計算して、従来どおりの補助を出す。
- 3、3年前から始まったルールで、常会として何か行事をやれば防犯灯をLED化するというルールがある。それを団体に当てはめて、団体として何か高萩市または地域のにぎわいを大勢の方々に参加できる、そういうにぎわいのイベントを毎年1回すれば、LED化の費用を市が全部負担するというようにして、ほかの団体にも声をかけていく。

いろんなやり方があると思う。検討していただきたい。

市長答弁 これからいい方法を考えて何とか駅前を暗くしないように検討したい。

現状 この質問の後、結局、市からの対策は進展がなく、駅前通りの商店街の方が協力しながら、ぎりぎり電気代を支払って街路灯を消さないように努力している。しかし、これがいつまで続けられるか、懸念されるところである。出来る限り早急に対策を取っていただきたい。私としては、これらの工事費用として国の補助がないので、市の持ち出しになることを考えると、上記の3案の「団体としてのイベントを年一回やってもらうことを条件に工事費用は市が全額負担」にして、街の賑わいをつくっていただくのが一番だと思う。

高齢者運転免許返納について

質問 高齢者の運転ミスによる事故が大きな社会問題となっている。加齢に伴う身体機能低下によって、運転に不安を感じるようになった高齢ドライバーが、自主的に運転免許を取り消す自主返納、最近では返納率が上がってきているが、それでも全国で75歳以上の免許所有者のうち、返納したのは5%程度。約95%は、引き続き運転しているということになる。

高萩市でも、昨年度より自主返納した方にタクシー利用券を交付しているが、自主返納率が上がったのかどうか？現状として、何%の方が返納しているのか？

総務部長答弁 警察の統計資料によると

	65歳以上の 高齢者運転免許保有者	返納者数	返納率
平成28年	5328人	64人	1.20%
平成29年	5564人	121人	2.17%
平成30年	5780人	113人	1.96%

← 支援事業開始

高齢者運転免許自主返納支援事業の開始前の平成28年と開始後の平成29年、30年は返納者数がいずれも増加していることから、本市の運転免許自主返納支援事業の創設が、免許返納の推進に寄与し、一定の効果があつたものと考えている。

質問 タクシー利用券3万円、返納のときに一度だけ交付され、後の支援はない。利用状況、評判はどうか？返納については、一定の効果が出ているが、このもらったタクシーチケットを皆さんは大事に使っている。もったいなくて使えないようだ。県内のほかの市町村では、市のコミュニティバスの無料乗車券や半額券が交付されたり、タクシーの初乗り運賃相当額に助成したり、いろんな事業が行われている。北茨城市では、運転免許返納に当たっては、別に何も無いが、65歳以上の高齢者すべてについて、毎年タクシー助成券が交付されている。そういった継続した支援も必要である。高萩市では、山間地域、本年度から赤浜地域を含めて、交通網としてデマンドタクシーが始まったが、利用状況はどうか？**その2地域以外でも、運転免許を返納した高齢者に対しては、デマンドタクシーが利用できるようにすべきだと思いませんか？**

市長答弁 現在、本市で運行しているデマンド型乗り合いタクシーは、公共交通空白地域であるため、路線バス等の公共交通機関の利用が困難な一部の地域の方に対して移動手段を確保するという観点で実施しているもの。免許返納者を含む高齢者移動支援ため、デマンド型乗り合いタクシーを運行することに関しては、通勤、通学者等の移動手段である既存路線バスとの共存や実際に運行を担うタクシー事業者における運転手や車両の確保などが現状において課題となっているので、これらの課題を十分に検討していく必要がある。なお、運転免許返納に伴い、交付するタクシーチケットは、現在、運行中のデマンド型乗り合いタクシーでは利用可能としている。

これからどのようなことをするべきか、市内全域にその不便をしている方に何とか制度をできないか考えている。現実的に、公共交通の問題、タクシーの運転者不足そういったものもあるので、これから研究していきたい。

県内市町村における高齢者運転免許証自主返納者等に対する優遇措置（一部抜粋）

市町村	事業内容	免許証を返納した高齢者	免許証返納に関わらず 高齢者
日立市	バス、タクシーの回数券	免許証を返納した65歳以上	
	路線バス運賃カード割引販売		70歳以上
北茨城市	タクシー利用料金の一部を助成	免許証を返納した65歳以上	免許証交付のない65歳以上
常陸太田市	市内路線バスカードまたは 市内タクシー利用券1万円分	免許証を返納した方	
	路線バス運賃 半額		75歳以上
下妻市	タクシー利用料金の一部を助成(初乗り運賃)		75歳以上のみの世帯 80歳以上
小美玉市	タクシー利用料金を一部助成 (初乗り運賃)	免許証を返納した70歳以上	免許証を保有しない70歳以上
	市内循環バスの利用運賃半額		65歳以上
河内町	河内町コミュニティバスの利用運賃を免除		70歳以上

吉川の考察▶ 運転免許を持っている高齢者が返納をするのを渋るのは、買い物や医者に通う、不便になるということはもちろんですが、市民のカラオケやスポーツ、サークルなど参加することができなくなるからという意見が出ます。病院とか買い物は行かなければいけないので、子供に頼むことができるが、仕事や子育ての忙しい息子や娘に、自分の娯楽のために運転を頼むわけにはいかないというのです。しかし、**生涯現役で、元気に過ごすためには、そういった社会活動に参加することが、大切だ**と私は思います。そういった意味で個人的に自由に使えるデマンドタクシーが広がったほうが、高萩市の場合は、いいのではないかと考えています。

高萩市の観光振興について

質 問 観光地への案内看板が不親切である。初めて高萩に来たとして、高速をおりてきた自家用車、電車で来た方が、スムーズにその場所に行けるようになっているのかどうかを確認したことはあるのか？花貫渓谷に行きたい方がわかるように、神宮司のセブンイレブンのT字の信号のところに案内板がある。できてよかったなと思ったが、夏休みが始まってからずっとお盆過ぎまで草が茂っていて、全く見えなかった。お盆過ぎになって、ようやく草刈りがしてあったが、大変おそい。その前に来た人は、きっと気づかなかった。こういうところを、誰かが常にチェックしていかなければいけない。毎日見回りをしろということではなくて、あそこを通る、出勤をする職員が出勤する前に、それぞれの職員が意識して確認をして気にしていればよい。そういう決まりはないのか？

産業建設部長答弁 道路の穴などは、各職員の出勤時とか退勤時に、穴が気になった場合にチェックをして、それを担当管理者、市道なら建設課、農道なら農林課のほうに伝える流れにはなっている。看板については、これから調査研究する。

質 問 今年から始まった小山ダムハギビレッジにも案内板標示がない。ボーイスカウトのスカウトフィールドも道の分かれ目に案内板がないところがあり、初めて来た人にはわかりづらい。しかもスカウトフィールドが利用できるのは自然体験や集団宿泊研修を目的とした教育活動の団体で、一般の方がレジャーで利用するのは難しい。小滝沢キャンプ場はトイレが新しくなっているが、設置されている机やベンチがかなり汚れていて、使う気にはならない。吊り橋付近、紅葉シーズンにはきれいにするのだろうが、道の枯れ葉がたまったり、吊り橋を渡った先のはぎまるが汚れてしまっている。また、インターネットの紅葉と吊り橋の紹介をしているページに、口コミでは「高速のインターから車で20分ほどだから意外にアクセスはいいが、たどり着くには少々苦労する。山道で幾つもの分岐があり、**吊り橋や駐車場には住所がないから、ナビを頼りにはできない**」「近くの飲食店のとりそねの住所を参考にいきましょう」と、そういうふうに乗っている。何とか解消をしたほうがいい。吊り橋のライトアップのときに、橋までの道が暗いから、観光協会が懐中電灯を200円で貸している。今度はお祭りらしく、夏の高萩まつりに使うちょうちんでもつけたほうがいいのではないか。観光を推進していきたいというなら、情報を発信する前にまずは観光地として十分な整備をすることが私は重要。そういった整備を見直すべきだと思うが、どう考えるか？

市長答弁 本当にそのとおり。これから観光振興をしていくのに、今、不足している案内看板については、内部でも同じような協議をしてきた。これから、たくさんある市民の要望とともにチェックし、逐次その事業にあわせて整備をしていきたいと考えている。

質 問 インターネットで茨城県の人気キャンプ場を検索すると1位は北茨城市の花園オートキャンプ場だった。少し遠いが、オートキャンプのサイトが60あって、それらは全て電源と水道がついていると。屋根つきのバーベキューハウス、お風呂もあって、施設がすごく充実している。利用料はサイト1つ当たり5,000円くらいかかるが、子供を連れて安心してキャンプができるのなら高くない。管理人の方に聞いてみると、夏休み中はほぼいっぱい。9月の連休も予約がとれないくらいらしい。一方、高萩市のキャンプ場は利用料がかなり安い、無料だが、こういった設備はないから、利用者としてはどうか。高萩市のキャンプ場、櫛平、小滝沢、



花貫自然公園、の利用状況は？

今年から小山ダムのところで始まったハギビレッジの企画はとても魅力的。グランピングのテントは快適そうだったし、ダムでカヌー体験なども楽しそうだと思う。シャワーウォーク、カヌー、サップ、ボート、グランピング、それぞれの利用人数はどうだったか？

産業建設部長答弁

施設名	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
花貫ふるさと自然公園	95件	1243人	119件	1332人	132件	1167人
けやき平キャンプ場	65件	200人	133件	401人	202件	515人
小滝沢キャンプ場	無料のため現状把握できない					

ハギビレッジ利用状況（7月13日～8月末）

	カヌー	サップ	ボートクルーズ	グランピング	シャワーウォーク	合計
利用人数	137人	36人	91人	104人	147人	515人

質 問 高萩市がアウトドアを進めると言っても、既存のキャンプ場を花園のキャンプ場や、日立のきららの里などの人気スポットと張り合うところとして、今から改造するのは難しい。となると、これから高萩市のアウトドアは、このハギビレッジのような形でグランピングを推進していくという方向で、そういう計画でいるのか？

市長答弁 これからはハギビレッジを入り口として、こういったものを拡充していくような、観光名所をつくっていききたい。

質 問 茨城県内では、さまざまな体験型の観光がある。バンジージャンプ、スカイダイビング、農業体験、そば打ち体験、イチゴ狩り。そこでしかできない体験ができるという観光地として魅力があるが、高萩市は何があるのか？

産業建設部長答弁 体験型の観光としては、小山ダム湖面でのカヌーやボート体験のほか、ダム敷地内において、手ぶらで宿泊キャンプが楽しめるグランピング体験等、また、茨城県の観光物産館が事務局を行っている漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会の事業でありまして、日帰りバスツアーのいばらきよいとこプランにおいて、春と秋に体験ツアープランを提案し、実施している。今年度は、秋は、みそづくり体験やヨガ、乗馬、セグウェイ体験を盛り込んだプランが採用され、現在募集を行っている。

SDGsへの取り組み

質問 最近時々テレビなどでも耳にする「SDGs」。2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標で、政界が直面する問題を解消し、持続可能な社会をつくるため、17の目標になっている。2017年には、まち・ひと・しごと創生基本方針2017が閣議決定され、自治体がSDGsに取り組むことで、地方創生の実現をしようということになっている。国では、自治体によるSDGsの達成に向けた取り組みを公募し、優れた取り組みを提案する都市をSDGs未来都市として選定し、強力に支援する。その中で、先導的に取り組みを自治体SDGsモデル事業として10事業を選定し、上限3,000万円の資金援助を行うことになっている。平成30年度に29都市、今年度31都市がSDGsの未来都市として選定されて、茨城県ではつくば市が未来都市に選ばれている。

この目標というのは、住み続けられるまちづくりとか、全ての人の健康と福祉とか、海の豊かさを守ろうなど根本的な目標で、特に難しいことをするのではなく、今まで自治体として取り組んできたコミュニティ



再生、少子高齢化、環境対策などの課題をSDGsの考えに沿った形で推奨していくことで、地方創生の実現につながるから、どの自治体でも取り組めるはず。高萩市においても、市の総合戦略における指標として取り組んでいただきたい。事業が認められるところは、大きな都市ばかりだと思いきや、小さなまちや村も結構ある。奈良県の戸塚村というところは、人口が3,332人、高齢化率44.4%と少子高齢化、過疎化の進んでいる村で、文化行事の維持の限界、空き家、廃校施設の増加、移動の不便、日本の課題をまとめたような村だが、林業と観光業で自立する村、知恵や技術、文化の継承された村、自然と共有する暮らしを目指してSDGs的なアプローチを導入して課題解決をしようとしている。しっかりした計画が立てられて、地方創生に対する心意気を感じられます。まずは、高萩市も市の抱える課題を改めて見直しして、こういった形式に従って計画を一度つくってみたらどうなのかと思う。

また、教育としてのSDGsの達成に取り組みがされているのか。まず、高萩市内の小中学校において、SDGsという世界的な目標があり、それがどんなものなのかという学習はなされているか。食品のロスをなくす、ごみを減らす、自然を大切にするなど、小さな意識の積み重ねが大切。民間企業や市民団体への意識啓発につながるような方法を検討しているというが、どうしても難しそうだなと

いう気持ちになる。わかりやすいお笑い講座で「笑って学ぶSDGs」というのをやっているところもある。まずはこの世界的な目標をみんなが知ることが重要だから、そういった取り組みを進めていただきたいが？

企画部長答弁 今後、市民や企業等への意識啓発につながる広報を行うとともに、市職員へのSDGsの研修会、これを年内に開催し、それから総合計画で市民向けへのアンケートを実施するが、その中でSDGsへの説明等の項目を設けることで、市民への意識啓発もつなげていきたいと考えている。

市長答弁 このSDGsというのは、もっと市民にわかりやすく、ちょっとやわらかく、こういったお笑い講座のようなものを使って啓発していただければと思っている。SDGsの補助金等を活用している奈良県の小さな村でも実施しているということなので、そういったものもよく調査して、把握して、この高萩市の中でもそういった補助金を活用できて、どのような実施の仕方があるかというのも検証して、これから進んでいきたいと思う。

教育長答弁 SDGsが持続可能な世界をつくるための目標であるのに対し、ESDはその持続可能な社会の担い手を育成する教育。このESDは、そのために、環境教育や人権教育、福祉教育など、計画的・系統的に取り組むもので、今年度高萩市の学校教育方針の重要な柱の一つとして位置づけている。中でもSDGsの目標達成に大きく関係する環境教育には、各学校で計画的に取り組んでいる。具体的には、川の汚染について調べたり、リサイクルや学内の清掃活動を行ったり、環境美化に関する内容やサケの稚魚の放流、ハマギクの移植など、環境保護に関する内容などを中心に学習することで、持続可能な社会の担い手としてできることは何かということ、児童生徒一人ひとりが考えられるようにしている。

吉川の考察

現在、環境問題は全世界的に考えられている重要な課題です。地球規模での環境破壊による地球温暖化が原因で、甚大な自然災害をもたらしています。あまりにも大きな課題で、「自分一人くらいが気にしたところで変わるものではない」と思いがちですが、実際には、私たち一人ひとりの意識を持って取り組むことで大きな結果を生むのです。スウェーデンの16歳のグレタ・トゥンベリさんが、気候変動対策を訴え、ノーベル平和賞候補に推薦されました。今私たちが環境対策に取り組むことで、私たちの子や孫の世代の災害対策となると思います。災害が起きたときのためのダムや堤防、避難対策ももちろん重要ですが、それと同時に災害の原因となっている環境問題について大人も子供もみんな考え、ゴミを減らす、リサイクルする、プラスチック製品を使わないなど小さなことから取り組んでいくことが大切だと思います。SDGsはそういった意識を高めるための重要な取り組みです。最近では、自治体単位で取り組んでいるところも多くみられます。高萩市全体でSDGsに取り組んだ地方創生を目指しましょう。